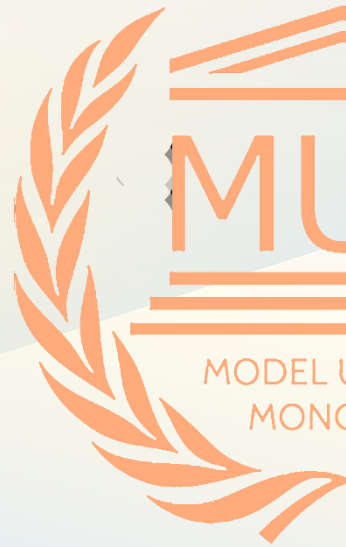


—モンゴル模擬国連への参加をとおりて共に学ぶ—
アジア太平洋青少年相互理解推進プログラム 実施報告書

Asia-Pacific Youth Exchange Programme
for Mutual-understanding and Respect
through Model United Nations in Mongolia



Think globally, Act locally



公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

—モンゴル模擬国連への参加をとおして共に学ぶ—

アジア太平洋青少年相互理解推進プログラム

実施報告書

モンゴル・ウランバートル

東京

2020年10月3日(土)

10月17日(土)

10月30日(金)

10月31日(土)

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

はじめに

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU: Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO）は、ユネスコの基本理念に基づき、多様な文化が尊重される平和で持続可能な社会の実現に資するため、アジア太平洋の人々と協働し、文化と教育の分野において地域協力・交流活動を推進しています。

ACCU では、国際社会や地域社会に主体的に貢献できる人材を育成することを目的として、2012 年より高校模擬国連推進事業を開始しました。国連会議のシミュレーションである模擬国連活動を通して、世界のあらゆる課題について学ぶ教育の機会を日本全国の高校生に提供しており、毎年、「全日本高校模擬国連大会」および「高校模擬国連国際大会への日本代表団派遣支援事業」を行ってきました。

2020 年、モンゴル・ユネスコ国内委員会の協力のもと、新たなプログラムを開始いたしました。このプログラムでは、2020 年 10 月 3 日、17 日、30 日、31 日の 4 回にわたって、モンゴル・ユネスコ国内委員会によるオリエンテーション、高校生同士の交流会、モンゴルで開催されている模擬国連大会である Model UNESCO Mongolia へ参加しました。プログラムの詳細、参加者の声など詳しくは本報告書をご参照いただきたく存じますが、この度のこの経験が参加されたすべての方の成長のきっかけとなり、将来にわたる相互理解と友好の一助となることを願ってやみません。

最後に、新型コロナウイルス感染症の世界的流行という未曾有の事態のなか、このプログラムに多大なご支援とご協力をいただきました、モンゴル・ユネスコ国内委員会、東芝国際交流財団をはじめとした関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

2020 年 12 月

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

目 次

1. プログラム概要	5
------------	---

Model UNESCO Mongolia 2020 コンセプトノート

参加者リスト

プログラム関係機関

2. 活動の記録	21
----------	----

3. 参加者のコメント	29
-------------	----

事業担当者のコメント

4. 活動の成果	39
----------	----

Draft Resolutions

アンケート調査結果

付録 プログラム写真	59
------------	----

Ⅰ. プログラム概要

プログラム概要

1. 背景

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）では、全国の高校生に対し、国連会議のシミュレーションである模擬国連活動を通して、世界のあらゆる課題について学ぶための教育の機会を提供し、国際社会や地域社会に主体的に貢献できる人材を育成することを目的として、2012 年より高校模擬国連推進事業を実施しています。

このプログラムは、2020 年から ACCU がモンゴルユネスコ国内委員会（モンゴル外務省）の協力のもと、実施する新たなプログラムです。このプログラムでは、2020 年 10 月 3 日、17 日、30 日、31 日の 4 日間、モンゴルと日本をオンラインでつないだワークショップや、モンゴルで開催されている模擬国連大会である Model UNESCO Mongolia への参加を実施します。

2. 目的

- (1) 文化的多様性への尊敬をもって国際社会や地域社会に主体的に貢献できる人材を育成すること
- (2) 未来を担う高校生が地球規模課題に対する意識を高め、理解を深めること
- (3) 国内外の参加者の間で友情を育み、相互理解を深めること
- (4) 意見交流の場を通して、モンゴル人学生の対日理解を促進し、将来にわたる日蒙関係発展の礎を築く場とすること

3. 日程

日程	場所	内容
10 月 3 日(土)	東京都内	東京プログラム DAY1 ・オリエンテーション ・日本人参加者同士の交流 ・モンゴルユネスコ国内委員会担当者によるモンゴルの歴史や文化に関する講義
10 月 17 日(土)	東京都内	東京プログラム DAY2 ・新モンゴル日馬富士学園の生徒との交流会 ・Model UNESCO Mongolia (MUM) 議題説明とオリエンテーション ・MUM の進め方について
10 月 30 日(金)、 31 日(土)	自宅	Model UNESCO Mongolia (MUM) オンライン参加

※対面およびオンラインのハイブリット形式で実施

4. 参加条件

- (1) 日本の高等学校に在籍していること
- (2) プログラムの全日程に参加できる健康状態であること
- (3) 全てのプログラムに積極的に責任感をもって参加できること
- (4) 英語での交流会・ディスカッションに意欲的、また主体的に参加できること
- (5) 参加については、在籍する高校の校長許可を得ていること

5. 参加費(自己負担分)

無料。ただし、次の 6.旅費等に定めるもの以外は自己負担とする。

6. 旅費等

ACCU は下記の項目について補助する。

- (1) 会場までの国内移動
- (2) 東京都内プログラム開催時の昼食代
- (3) 希望者に対して MUN 参加時に Wi-Fi 貸与

Model UNESCO Mongolia 2020 コンセプトノート

I. MUM の背景

Model UNESCO Mongolia (以下 MUM) は、ユネスコ北京事務所 (UNESCO Beijing Office:UBO) の協力のもと、ユネスコ創設 70 周年を記念し、国連青少年アドバイザリー委員会 (UN Youth Advisory Panel:UNYAP) モンゴル支部、及び、モンゴル・ユネスコ国内委員会 (Mongolian National Commission for UNESCO:MNCU) により、2015 年に組織されました。MUM はユネスコ総会のシミュレーションで、青少年が国を代表し、ユネスコ加盟国の常任代表として教育、科学、文化に関する地球規模の諸問題について議論し、決議案を策定します。その際、参加者自身が人々の意識を高めたいと考えている重要な地球規模課題にスポットライトを当てることにより、青少年が自らの意見を共有するプラットフォームを提供し、意見を提言する場となっています。そもそも、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」における 17 の持続可能な開発目標¹ (SDGs) を普及させ、国際的な時事問題や外交、ユネスコの活動について学ぶ場として考案されました。

青少年の能力を育成すると同時に、SDGs を達成する上での国連機構内におけるユネスコの役割を学び、また、ロールプレイを通じて多国間主義の力学に対する見識と理解を深めることが本会議の目的です。さらに、参加者が人前で話すことや文書分析など、対人スキルや専門スキルを磨く機会を提供します。

会議で取り扱う議題は、委員会が 1 つしかなかった 2015 年の開始以来、急速に拡大しています。モンゴルで MUM に関する情報が広まるにつれ、参加者数、そして最も重要なこととして、会議のレベルが劇的に向上しました。成功裏に終わった第 3 回 MUM2017 ではそれまでの会議を踏襲しつつ、文化、教育、人文・社会科学の 3 つのユネスコ委員会が導入され (特に人文・社会科学委員会では全て英語にて議事進行を実施)、参加者全員がより充実した体験を積むこととなりました。そして、この流れは現在の MUM にも続いています。

MUM 会議はウランバートル市を中心に行われてきた一方で、ユニークな考え方を会議に提供できる多くの青少年がモンゴルの郊外に暮らしていることを考慮し、2018 年に国内 3 つの地域からも MUM に参加するようになりました。参加者の対象地域拡大によって、MUM の重要性は益々高まりました。MUM に地域の代表者が参加したことは、モンゴル全国の青少年にユネスコとユネスコの使命を広めることに大いに役立ち、重要な地球規模の問題に対し可能な解決策を見出すよう促すこととなりました。さらには、地方へ拡充したことで、MUM の全国的知名度が大きく高まると共に、

¹ United Nations, General Assembly, A/RES/70/1, 21 October 2015.

青少年に対する全国規模での SDGs 推進に繋がりました。

2019 年、第 5 回 MUM 会議も成功を収めました。それまでの会議を踏襲しつつ、全参加者により充実した体験を提供する、という MUM の流れを継続すべく、ユネスコ総会に似た新しい形式を実践し、ユネスコのミッションに更に近付くような形で実施しました。韓国ユネスコ国内委員会の多大な支援により、第 5 回 MUM には韓国からの代表者も参加し、近隣他地域からの参加者拡大の基盤も確立されました。

II. MUM2020 の活動根拠

MUM 改善の必要性があるとの認識の下、第 3 回 MUM の終了後、2018 年に改革プロセスが始動しました。MUM2018 は、他の模擬会議と同様に、国連総会に似せた形式で実施しましたが、その成果文書および参加者に送付された評価アンケートの結果から MUM の形式、体制、および内容を改善する必要性が明らかとなりました。とは言え、モンゴルにおける模擬会議の先駆者として国内の青少年を鼓舞し活気づける活動を行って数年が経ち、ある意味、改革の必然的タイミングだったことは特筆すべきでしょう。

ユネスコの戦略的改革も進む中、MUM2019 の変革が適切なタイミングで行われました。ユネスコ総会を模倣した形で MUM 会議を開催するのは初めてでしたが、参加者は新しい形式にうまく適応し、会議は成功を収めました。MUM の成果文書は、ユネスコの持続可能な開発目標 (SDGs) 達成のための将来の行動に対する提案を含む決議草案の形で作成されました。そして、この成果文書はユネスコの時期中期戦略策定にあたっての検討材料としてユネスコに提出され、モンゴルの青少年たちがユネスコの活動により深く関わり、また自分自身のコミュニティ内でより積極的な役割を果たすよう、刺激と自信を与えることに繋がりました。

国民の MUM に対する関心が高まっていることに加え、会議の独自性と、青少年の声がより高いレベルの政策決定で取り上げられる可能性を有していることから、周辺地域からの関心が非常に高まっています。MNCU は、周辺地域とのイベントとして第 6 回 MUM を開催する中で、ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) と協力していく方向です。MUM の持続可能性を確保することに加え、MUM の重要性と質をさらに高めるため、組織チームは MUM2020 実施にあたり、周辺地域の国々との協力強化、及び会議期間を最低でも 2 日間に延長する必要があると考えています。

また、MUM2020 が開催される 2020 年は国連創設 75 周年でもあります。事務総長の主導で「国連創設 75 周年：私たちが望む未来に向けた対話 (UN75 Dialogues on the Future We Want)」が年間を通じて実施されます。そこで MUM は、国連 100 周年である 2045 年までにより良い世界を実現するために、ユネスコがどのように役立てるかの意見を共有する、「UN75 ユース・ダイアログ (UN75 Youth Dialogue)」として始動します。

III. 目的

MUM2020 の主な目的は、教育、文化、科学の分野でユネスコのプログラムを実施する上で青少年がどのような役割を果たすことができるかを参加者が熟考し、関係者に向けて具体的な提案を行うことです。この目的は下記の点と共に達成されます：

- ユネスコの使命、活動、及びユネスコ総会に関する青少年の理解を深める
- 国際情勢、各国ごとの政策、国連の持続可能な開発アジェンダに関する青少年の知識を向上する
- リーダーシップ、批判的思考、スピーチ、英語での政策立案などの個人スキルを含む、交渉、外交、同意形成における参加者の技能を育成する
- 特に「国連創設 75 周年：私たちが望む未来に向けた対話」を通して、現在起きている世界規模の諸問題に対し、国の視点、及び参加者本人の視点、双方から考察する
- 外交の実践体験を通じ、将来のユネスコにおいてどのような貢献ができるかについて熟考する機会を提供する
- グローバルな意思決定者になるためのコンピテンシーを強化し、活動的で見聞の広い地球市民になるよう刺激し、動機付けを行う
- 周辺各国との対話に参加する青少年を増やすことで、周辺各国との協力を促進する

IV. 期待される成果

MUM2020 閉会の際、各委員会の参加者は成果文書を決議の形で作成します。参加者によって作成された決議は、MNCU の事務総長によって正式にユネスコ北京事務所および UNRC モンゴル事務所に提出され、関連する地方、地域、および国際機関と共有されます。

さらに、MUM2020 では下記の成果が考えられます。

- 知識の向上と他分野でも応用の効くスキルの強化
- ユネスコやその他の関連機関との関わり方や、意思決定プロセスに関与する方法についての意識向上
- 他の国連専門機関の機能に関する認識を高め、多国間主義がどのように機能するかについての理解を深める
- コンセンサスを形成し、オフィシャルで多文化な環境で活動することによる、さまざまな国の若者と連携する能力の強化
- 「国連創設 75 周年：私たちが望む未来に向けたユース・ダイアログ」の立ち上げ

V. MUM 2020 の組織

A. 会議の形式

MUM 2020 は、MUM 2019 と同様の会議形式で行います。これは、本会議と委員会会議で構成されるユネスコ総会の形式に似ています。参加者は、加盟国の代表としての役割を担います。

総会は、議長(運営チームによって事前に指名される)による本会議での開会式によって開会します。その後、議長は委員長、副委員長、書記からなる各委員会の事務局とともに 3 つの委員会を設立させます。その後、総会は運営チームが準備した議題を承認します。

B. 委員会及びテーマ

MUM 2020 は、ユネスコの ED (教育)、SHS (人文・社会科学)、および CLT (文化) 委員会で構成されます。各委員会内で、常任代表(参加者)は、「YOUth-あなたが望む未来と若者が望む未来」という包括的なテーマの下、じっくりと討議します。また、参加者が現在進行中のパンデミックおよびポスト COVID-19 の世界におけるニューノーマルについての新たな創造についての考えを会議にもたらすことを歓迎します。

このテーマを念頭に、参加者は下記のトピックに重点的に取り組みます。

- ED 委員会: 持続可能な開発のための教育における ICT 利用及び ODL (open and distance learning: オープン遠隔学習) の主流化
- SHS 委員会: 特にジェンダー視点による差別や排除への対処
- CLT 委員会: アーティストや創造産業のレジリエンスへの支援

C. 会場日時

MUM 2020 は現在のところ 10 月 30~31 日に実施予定です。ホテル会場や会議場に関する三社の見積結果に基づき、MUM 2020 の開催地を決定します。

D. 使用言語

MUM 2020 での使用言語は英語です。また、会議に関連する全ての文書は英語で入手可能です。同時通訳や逐次通訳は実施されないため、参加者は実用レベルの英語力が必要です。

E. 会議前の準備

a. 情報源となる資料

参加者には参加者ハンドブックが配布されます。このハンドブックには手順規則、ユネスコ、委員会、会議トピックに関する詳細情報、及び参考資料へのリンク（理事会の記録概要、総会の議事録、2020-2021 年にかけてのユネスコのプログラム及び予算、ユネスコの 2014-2021 年中期戦略、Youth 2030: The UN Youth Strategy, UNESCO's resources for COVID-19 response など）が掲載されています。参加者は、討議予定のトピックや担当国のスタンスについて、具体的な地球規模課題とそれに対する提案について焦点をあてつつ、さらに独自でリサーチすることが求められます。

b. 能力開発ワークショップ/トレーニング

MUM 2020 の全体的な形式とその手順規則は、標準の模擬国連会議とはやや異なります。そのため、MUM 2020 の事務局のメンバーと参加者は、円滑な組織運営を行うため、トレーニングワークショップを修了する必要があります。ワークショップは、総会の進行に関わる全員を訓練することを目的とし、模擬セッションも含まれます。

F. 参加者

15~27 歳の計 45 名が MUM 2020 に参加予定です。尚、運営チームは、事務局と審査員を含む 15 人で構成されます。

a. 周辺地域国への拡大

本年、MUM は北東アジア地域の若者が参加することで、参加者地域のさらなる拡大を目指しています。周辺地域の 4 か国、すなわち、日本から 5 名、中華人民共和国、および大韓民国の各国から 1 名の参加者が、ユネスコ国内委員会および（または）関連機関を通じて、招待されます。

b. 申込及び選考プロセス

参加希望者は、自由回答形式の設問が複数記載された申込書に必要事項を記入します。設問は現代社会における重要な問題に対処し、MUM 外でもユネスコの取り組みを促進

する能力に加え、リーダーシップ、分析的、創造的思考、イノベーションスキルなど、申請者のソフトスキルを評価することを目的とした内容となっています。運営チームによる慎重な審査が実施され、回答内容と英語力に基づき選出されます。参加者は社会活動に積極的であることが求められ、それは基本的な参加者選考の基準となります。

同様に、希望者は各委員会の委員長、副委員長、書記のポジションへの申込書に記入することができます。運営チームは、上記ポジションの適任者を応募者の中から選出するよう努めるものとしませんが、応募の如何に関係なく、有能且つ経験があるとみなされる人物を選出する権利を有します。

主催者は、教育、文化、人文社会科学の分野で、優れた人物を3名選出する予定です。この3名は、MUM 2020の3つの委員会の評価を行う上で、トピックに関する幅広い知識を有する者です。

※日本国内における参加者の選考は、この限りではありません。

プログラム関係機関・助成/協力機関

<日本側主催>

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター/
Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)

<モンゴル側主催>

モンゴル・ユネスコ国内委員会/Mongolian National Commission for UNESCO

<助成>

公益財団法人 東芝国際交流財団

<協力>

新モンゴル日馬富士学園

2. 活動の記録

10月3日(土)東京プログラム DAY1

13:00-13:15	オリエンテーション
13:15-13:50	参加者による自己紹介
13:50-14:00	休憩
14:00-14:50	グループワーク&ディスカッション テーマ①モンゴルについて知りたいこと テーマ②モンゴルの人に紹介したい日本のこと
14:50-15:00	休憩
15:00-15:50	モンゴルの歴史と文化に関する講義と質疑応答 By Ms. Namuun Ganbat モンゴルユネスコ国内委員会 Ms. Odontuya Altansukh, UN Youth Advisory Panel
15:50-16:00	振り返り・閉会

日本各地から集まった参加者同士、地域の名産や食べ物、自信のこれまでの経験や将来の夢などを共有しました。後半は、モンゴルとオンラインでつながり、モンゴルの歴史や文化についてお話いただき、お互いに対する理解を深めました。



10月17日(土)東京プログラム DAY2

12:00-12:45	新モンゴル日馬富士学園の生徒とのランチ交流会
12:45-13:00	オリエンテーション
13:00-13:45	日本紹介のプレゼンテーション
13:45-14:00	休憩
14:00-14:15	Model UNESCO Mongolia (MUM)オリエンテーション By Ms. Namuun Ganbat モンゴルユネスコ国内委員会
14:15-14:30	Model UNESCO Mongolia(MUM)議題解説 1 Education Commission 「持続可能な発展のための教育における ICT 利用及び ODL (open and distance learning:オープン遠隔学習)の主流化」 By Ms. Udval Sukhbaatar, Chairperson
14:30-14:45	Model UNESCO Mongolia(MUM) 議題解説 2 Social and Human Sciences Commission 「特にジェンダー視点による差別や排除への対処」 By Ms. Ulsbold Battulga, Chairperson
14:45-15:00	Model UNESCO Mongolia(MUM)議題解説 3 Culture Commission 「アーティストや創造産業のレジリエンスへの支援」 By Mr. Unumunkh Jargalsaikhan, Chairperson
15:00-15:15	休憩
15:15-15:35	Model UNESCO Mongolia(MUM)ルールとプロシージャ By Ms. Odontuya Altansukh, Coordinator, UN Youth Advisory Panel
15:35-15:55	質疑応答
15:50-16:00	振り返り・閉会

この日はランチタイムを使って、ウランバートルにある新モンゴル日馬富士学園で日本語を学ぶ高校生たちと日本語を使って交流しました。アニメや J-pop など共通の話題で交流を深めました。

その後、ペアとなって MUM に参加するモンゴルのユース達に対して、それぞれが準備してきた

発表資料を使って、日本の歴史、おもてなし文化、学校生活などを紹介しました。その後、MUM の本格的なオリエンテーションが始まり、議題の内容や会議の進め方について説明を受けました。圧倒された人、闘志がみなぎる人、それぞれに MUM 本番への思いを抱えて閉会しました。



10月30日(金) Model UNESCO Mongolia DAY1

※モンゴル時間

DAY ONE (30 Oct 2020)	
Opening Session	
09:00-09:30	<p>Opening remarks</p> <ul style="list-style-type: none"> – <i>President of the 6th Session of the MUM and Secretary General of the United Nations Youth Advisory Panel</i> <p>Welcome remarks</p> <ul style="list-style-type: none"> – <i>Mr Tapan Mishra, UN Resident Coordinator</i> – <i>Ms Uyanga Sukhbaatar, Secretary General of the Mongolian National Commission for UNESCO</i> – <i>Ms Yumi Shindo, Director of International Educational Exchange Department, Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)</i>
09:30-09:40	Establishment of Commissions and Appointments
09:40-09:50	Group photo
09:50-10:20	Coffee break
Session 1	
Commission Meetings	
/SHS Commission: 3 rd floor auditorium, CLT Commission: 6 th floor meeting room, ED Commission: 7 th floor meeting room/	
10:20-10:40	Adoption of the agenda
10:40-11:10	<p>National Statements</p> <ul style="list-style-type: none"> – <i>Representatives of each country /2 minutes each/</i>
11:10-12:30	General debate on the the reimagination of the new normal during the current pandemic and for a post-COVID world in the fields of Education, Science and Culture
12:30-13:30	Lunch
Session 2	
Commission Meetings	
/SHS Commission: 3 rd floor auditorium, CLT Commission: 6 th floor meeting room, ED Commission: 7 th floor meeting room/	
13:30-13:40	Attendance check
13:40-16:00	General debate on the the reimagination of the new normal during the current pandemic and for a post-COVID world in the fields of Education, Science and Culture /cont'd/

16:00-16:30	Coffee break
16:30-17:00	General debate on the the reimagination of the new normal during the current pandemic and for a post-COVID world in the fields of Education, Science and Culture /cont'd/
17:00-17:20	Feedback and Orientation for day 2

Google meet を使用したライブストリームを通じて会場とつながり、会場にいるペアと協力して会議に参加しました。3つの議場に分かれて、各議題に関する議論が展開していきました。



モンゴルの会場ライブストリームの様子

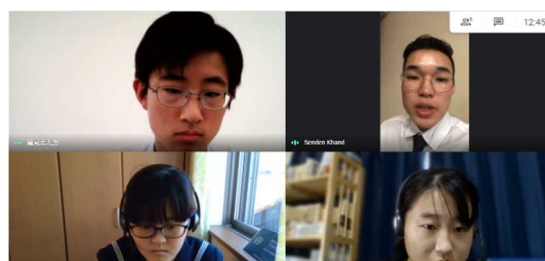
10月31日(土) Model UNESCO Mongolia DAY2

※モンゴル時間

DAY TWO (31 Oct 2020)	
Session 3	
/SHS Commission: 3 rd floor auditorium, CLT Commission: 6 th floor meeting room, ED Commission: 7 th floor meeting room/	
10:00-11:00	General debate on the the reimagination of the new normal during the current pandemic and for a post-COVID world in the fields of Education, Science and Culture /cont'd/
11:00-12:00	Formulation of Draft Resolutions
12:00-12:30	Adoption of Draft Resolutions

12:30-13:30	Lunch
Closing session	
13:30-13:50	Closing remarks <ul style="list-style-type: none"> - <i>Mr Tapan Mishra, UN Resident Coordinator</i> - <i>Ms Uyanga Sukhbaatar, Secretary General of the Mongolian National Commission for UNESCO</i> - <i>President of the MUM, Secretary General of the United Nations Youth Advisory Panel</i>
13:50-14:20	Evaluation of the Judges
14:20-14:50	Award ceremony
14:50-15:00	Group photo
15:00-17:00	Reception

プログラム2日目は、決議案をまとめることに多くの時間が使われました。日本からの参加者も徐々に会議に慣れ、積極的に発言し会議に貢献しました。閉会式では、互いの健闘を称えあい大きな拍手が送られました。決議案は、モンゴルユネスコ国内委員会の事務総長によって正式にユネスコ北京事務所およびUNRC モンゴル事務所に提出されました（本報告書後半にも掲載）。



4. 活動の成果



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

Organisation
des Nations Unies
pour l'éducation,
la science et la culture

Organización
de las Naciones Unidas
para la Educación,
la Ciencia y la Cultura

Организация
Объединенных Наций по
вопросам образования,
науки и культуры

منظمة الأمم المتحدة
للتربية والعلم والثقافة

联合国教育、
科学及文化组织

General Conference

6th session, Ulaanbaatar, 2020

Commission ED

ed

39 C/COM ED/DR.1

31 October 2020

Original: English

DRAFT RESOLUTION

Mainstreaming the use of Information Communication Technology (ICT) and Open-Distance Learning (ODL) in global education for sustainable development

Recognizing the threats of the COVID-19 pandemic in the global education sector,

Deeply concerned for global education and the youth of the world,

Seeking efficient solutions for keeping long-term educational systems around the world,

Having considered economic, cultural, regional, technological differences in countries while deciding on resolutions,

Seeking monetary aids from NGOs, international organizations or foundations,

Keeping in mind the logistical challenges UNESCO is presented with,

Determined to work towards mainstreaming ODL and ICT education to the Education committee's full capacity, in terms of finance, humanpower, partnerships and other forms of external assistances,

Recalling the "Education 2030: Incheon Declaration and Framework for Action for the implementation of Sustainable Development" conference in Incheon 2015 which concerns Goal

4: Ensure inclusive and equitable quality education and promote lifelong learning opportunities for all,

Stressing the need to protect the rights of immigrant populations, not the least of which is the right to quality education,

Acknowledging that education is a right for every child, as mandated by the United Nations Convention on the Rights of the Child and the Convention on the Rights of Persons with Disabilities,

Recognizing the rights of students with disabilities to enjoy their right to equal education,

Seeking a way to provide education by efficiency of assistive devices,

Having considered difficulties on repair and maintenance services, distribution, and professionals on assistive devices,

Taking account of training of technology development on assistive devices,

1. *Calls upon* every UNESCO's member states and organization to cooperate in battling the COVID-19 pandemic in the field of education;
 - a. *Encourages* Ministries of Education and Science, and governmental education institutes to collaborate and share experience in reopening and implementing ODL methods during the pandemic;
 - b. *Recommends* governments to ensure equal access to ICT and ODL methods by providing electricity and internet connection.
 - c. *Further* recommends member states' governments and its Ministries of Education to spread the awareness of the "Global Education Coalition" which consists of numerous NGOs and NPOs working not only for ODL but also bringing out the solution for technological challenges during COVID.
 - d. *Emphasises* the necessity of fundamental education, such as basic literacy and basic mathematics as a basis for further education
2. *Encourages* individuals and organizations to collaborate in establishing more online libraries, and e-book-based websites.
3. *Approves* the creation of more educational training institutes in auspices of UNESCO throughout the COVID-19 pandemic
 - a. *Designates* \$13 million in recruiting, training and allocating professors, teachers and educators to share experience, and help other nations overcome the difficulties of running virtual learning programs and in-person schools which must follow COVID-19 prevention guidelines.
 - i. *Allocates* \$5.8 million to the supply of smart devices to the most isolated and impoverished regions of the world
 1. Such regions include sub-Saharan Africa, regions within the Indian subcontinent, and the Middle Eastern desert
 2. Devices will be distributed such that each household has at least one device

- ii. *Allocates* \$4.5 million to training currently technically illiterate educators, who are in crucial need of understanding the concept of open-distance and virtual learning
 - 1. This includes online training and in-person training if absolutely necessary. In-person training is only recommended in emergency situations as funding is insufficient.
- 4. *Recommends* governments to seek ways to increase domestic expenditures on education, support universities, NGOs and NPOs in helping out people who are in “crucial needs”.
 - a. “Crucial needs” as stated in Clause 3 refers to important knowledge and gadgets in implementing ODL.
 - i. Gadgets may include devices with internet accessibility such as computers, smartphones, or tablets.
 - ii. Important knowledge may refer to teachers’ technological literacy as well as the general understanding of ODL among parents or guardians.
 - b. Encourages UNESCO’s member states’ governments to discuss increasing domestic expenditures on education sector
- 5. *Requests* international donor organizations such as GPE, IMF, World Bank, Asian Development bank, and African Development bank to provide support to member states’ educational institutions, schools and libraries to operate on virtual and online platforms.
 - a. Borrower countries are entitled to make criteria and terms to the borrowing country.
 - b. If the borrowing country fails to meet the criteria and terms the borrower demands, UNESCO or the ED Commission does not hold responsible for the states’ failure in using the loan
- 6. *Requests* funding from donation made by external organizations
 - a. *Accepts* any amount of funding from donation accounts for UNESCO Education Programs
- 7. *Calls upon* the United Nations High Commission for Refugees, International Organization for Migration and European Union to discuss the possibilities and challenges in educating refugees and immigrants.
 - a. Encourages governments and refugee councils to further investigate and hold discussions on long term plans for educating all immigrants and refugees.
 - b. Provides immigrants with equal learning opportunities as non-immigrants.
- 8. *Recommends* international organizations, universities, governments and its Ministries of Education of UNESCO’s member states to adapt appropriate programs and curriculums which are coped with ODL methods
- 9. *Recommended* educational program reforms include:
 - i. Selection of a mainstream technology to deliver curricular courses to students at certain grade levels
 - ii. Physical Education program that is appropriate for home environment

- iii. Initiate open distance dance lessons and acting lessons for encouragement, better mental health and self-entertainment at home
 - iv. Primary grades and middle schoolers should receive only highly required subjects such as their native language, basic mathematics, culture and introduction to science in the time of the pandemic
 - v. Urging governments to provide their citizens with e-learning guidelines for the efficiency of online learning
 - vi. High school students should be mainly taught the previously mentioned programs on "Clause 8, sub-sub clause v" on a higher level in the of the pandemic
 - 1. Encouraging education institutes to allow high school students in choosing subjects of their choice
 - vii. Encouraging international online forums to be held between countries which can implement ICT and ODL to share their experiences in overcoming obstacles regarding the ODL implementation
 - viii. Initiate television and radio education programs as it is more accessible in contrast with devices requiring internet access.
 - 1. Encourages governments to expand their radio and cell towers to be more accessible throughout the country.
 - 2. Recommending the programs to include similar content as subjects taught in education institutes.
 - ix. Encourages nations to implement national e-learning system based on pass rather than numerical grading system
 - 1. This system is only recommended in a time of the pandemic.
 - 2. Pass/No Pass (P/NP), satisfactorily completed course (at the "C" or better level), you will receive a "Pass (P)" on your DVC transcript. If you finish the course at the "D" or "F" level, you will receive a "No Pass (NP)" on your transcript. Neither P nor NP will affect your DVC grade point average.
 - x. Encourages universities, colleges and education institutes to be more flexible in applications requiring standardized tests such as IELTS, TOEFL, SAT, Cambridge A & AS levels, AP, IB, language level skill scores throughout the pandemic
 - xi. Considers initiating an education program for parents with disabled children.
 - 1. The program should be flexible in both ODL and in-person situations
 - 2. Recommending the program to officially be added to the general education program plan of the nation..
 - xii. Encourages universities, colleges to reach out and help areas in need according to their own limits
10. *Encourages UNESCO's member states to enhance production of manufacturers of assistive devices for people with disabilities and begin research on distribution of the devices to the public.*
11. *Calls upon nations and multinational corporations to establish international and national research centers for assistive devices for the disabled*

- a. *Research* centers will gather data and conduct needs of disabilities and technological centers will improve their products.
- b. *Recommends* research centers to conduct quantitative surveys in finding exact numbers of disabled people who are in need of assisting devices.
- c. *Notes* that mass production of assistant devices will be cost-effective
- d. *Recommends* the assistive devices to be simple and easy to use.



General Conference

6th session, Ulaanbaatar, 2020

United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

Organisation
des Nations Unies
pour l'éducation,
la science et la culture

Organización
de las Naciones Unidas
para la Educación,
la Ciencia y la Cultura

Организация
Объединенных Наций по
вопросам образования,
науки и культуры

منظمة الأمم المتحدة
للتربية والعلم والثقافة

联合国教育、
科学及文化组织

Commision SHS

“SHS”

39 C/COM SHS/DR.1

31 October 2020

Original: English

DRAFT RESOLUTION

Proposal for Amending Gender-Based Injustices Exacerbated by the ‘New Normal’

The General Conference,

Recalling the Convention against Discrimination in Education, which concerns the principle of non-discrimination and every persons’ right to education,

Recognizing that gender-based discrimination and exclusion is increasing due to the pandemic,

Urging member states to comply with the fifth goal of the Sustainable Development Goals Gender Equality,

Calling upon states to assemble quickly and take actions for reducing any variety of gender-based violence,

Keeping in mind the Member States to implement the Unpaid work Plan, identify and resource-specific activities of the Unpaid work Plan which are of national importance, and advocate the implementation of the Unpaid Work Plan at regional levels;

Requesting the expansion of global campaigns combating gender discrimination and all forms of exclusion of LGBTQ+ people,

Emphasizing LGBTQ+ people are not few in number since some of them cannot say what they are in public,

Recalling politicians and teachers who don’t regard gender is should be equalized,

Reaffirming the importance of eliminating sexual harassment in education and work is a foremost and women, especially essential and informal workers are at heightened risk of violence as they navigate deserted urban or rural public spaces and transportation services under lockdown,

Emphasizing the need for international cooperation on this issue,

1. Gender-based violence in school and workplace

a. Addressing cyberbullying

- I. Suggesting governments to recognize cyberbullying and take preventative measures.
- II. Requests all member states to take actions for raising awareness in their citizens that their children could be attacked mentally, and being discriminated against in their school groups, during online classes.
- III. Suggesting governments to take hold of discrimination report papers from students and be actively receiving result. And recommend it should be conducted both from local government and international organisations.

- IV. Funding further research and specifically addressing the issue raised with the pandemic could be helpful combating cyberbullying.
- b. Regarding the recognition of the right to internet access, known as the freedom to connect.
 - I. Encouraging the Member States to facilitate opportunities for affected minorities to work from home and maintain economic independence.
 - II. Recommends Member states to ensure the Right to express and report violations of their right.

2. Strengthening interactions of communities toward LGBTQ+

- a. Wishing member states to protect the LGBTQ+ community from discrimination and violence by:
 - I. Encourages local communities to raise their voice on decriminalising same-sex sexual relations between consenting adults;
 - II. Requests international organisations to run activities opposing such relations are being punished by the death penalty;
 - III. Recommends member states to improve the efforts to prevent, monitor and report such violence, especially during times of risk.
- b. Bearing in mind the importance of protecting LGBTQ+ community from exclusion by:
 - I. Expresses its hopes the Member States to addressing discrimination against LGBTQ+ adolescents and children;
 - II. Requests Member states to take actions to prevent prejudice against LGBTQ+ persons through dialogue and training;
 - III. Further request the Governments to shaping transparency of unseen harms in the job field and other sectors;
 - IV. Encourages the member states to further develop public spaces for open dialogue between the local authorities and LGBTQ+ community to better understand their needs and ensure that the necessary legislative and policy measures are taken to secure their fundamental human rights.
- c. Ensuring sufficient service in health care without discrimination by:
 - I. Further invites Member states for raising awareness of unique vulnerabilities in the public and healthcare sectors;
 - II. Calls upon the Government for accessing equal opportunity to LGBTQ+ minorities in health services without healthcare discrimination;

3. Xenophobia - Addressing the issue through gender lens

- a. Requests governments to take appropriate steps to prevent xenophobic violence and discrimination linked to the COVID-19 pandemic;
- b. Recommends member states to celebrate other cultures. Coronavirus is a threat to every human being; we must work together to halt transmission and protect the most vulnerable among us and stigmatization is cruel and counterproductive. Being more open-minded towards other cultures and celebrating them can raise more awareness.
- c. Further requests governments to conduct extensive research of xenophobic gender discrimination and make a report back to UNESCO.

4. Addressing Gender Inequality regarding domestic violence, domestic burdens and unpaid work

- a. Encouraging implementation of paternal leave policy of member states.
 - b. Suggesting member states to consider the following:
 - I. Recognizing equal parental duty of both mother and father.
 - II. Spreading awareness to eliminate harmful stereotypes.
 - III. Providing a 24-hour hotline to the public for domestic violence.
 - IV. Providing victims of gender-based violence and discrimination with shelters, healthcare, and counselling.
 - V. Encouraging victims to report incidents of domestic violence.
- C. Addressing the issue of unpaid work.
- I. Promoting equal sharing of family responsibilities between women and men more effectively,
 - II. Providing a better infrastructure for public or social services. Gender equality in the workplace and the sharing of domestic and parental responsibilities are interrelated. Therefore only combined strategies - aiming at both the sphere of unpaid work and the world of formal gainful employment - might be successful in changing the uneven distribution of unpaid work.
 - III. Prepare unpaid caregivers with information, training, adequate equipment, and livelihood support to respond to the COVID-19 pandemic.



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

Organisation
des Nations Unies
pour l'éducation,
la science et la culture

Organización
de las Naciones Unidas
para la Educación,
la Ciencia y la Cultura

Организация
Объединенных Наций по
вопросам образования,
науки и культуры

منظمة الأمم المتحدة
للتربية والعلم والثقافة

联合国教育、
科学及文化组织

Model Unesco Mongolia
2020
6th annual conference

clt

31 October 2020
Ulaanbaatar, Mongolia
Original: English

Commission CLT

Draft resolution

CLT commission

Under the Topic of: Supporting the resilience of artists and the creative industry
October 30, 31th, 2020. Ulaanbaatar, Mongolia.

The CLT commission

Paying respect to that each perspective nation has its own unique cultural and creative heritage,
Encouraging UNESCO to initiate broader researches on the said topic, therefore delegates and audiences would have the importance of understanding,
Recognizing the agendas implemented under the mandate of CLT commission,
Respecting each perspective nation's laws and legislations,
Deeply concerned by the lack of public promotion for the creative industry during the pandemic period,
Realizing the human rights and fundamental freedoms proclaimed in the Universal Declaration of Human Rights,
Taking into account the importance of Goal 11 of the Sustainable Development

Goals into our commissions topic,

Being deeply conscious of the drastic unemployment rate in the creative sectors,

Following Article 6 of the 2005 Convention on the Protection and Promotion of the Diversity of Cultural Expressions.

The CLT commission altogether agrees and supports the following resolutions:

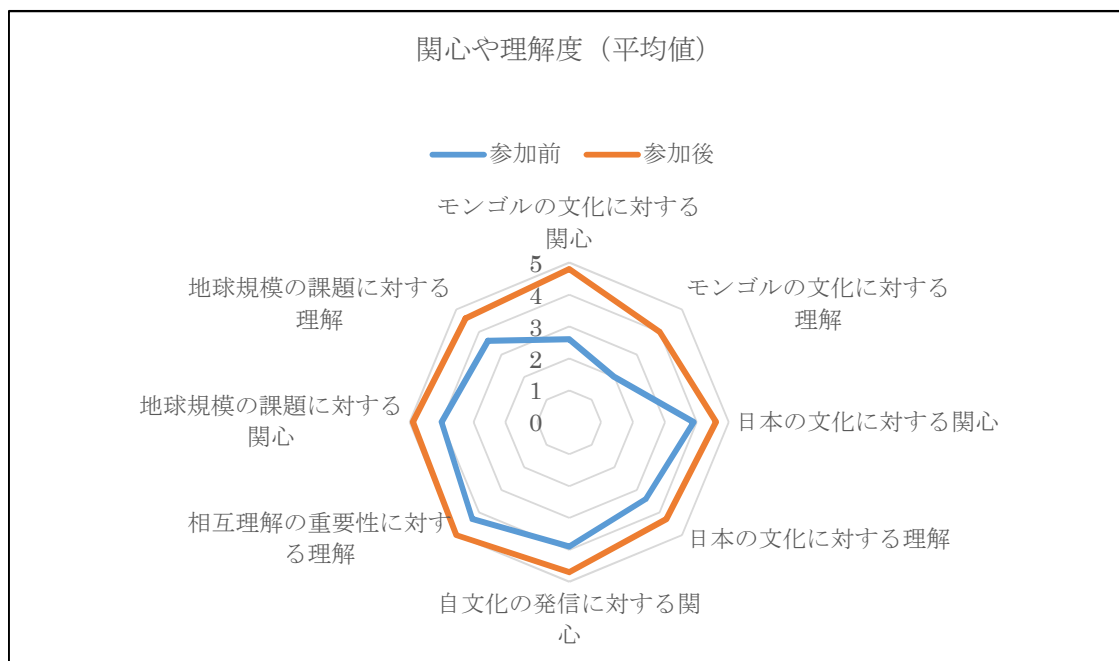
1. *Requests* UNESCO Creative Cities Network to start “Artistic Cities Program” to address unemployment, advertise cultural awareness and promote SDG 11;
 - a. The Program would require participating cities to improve the image and environment of their cities using creative works commissioned and purchased by the city governments from their own creative residents.
2. *Encourages* each respective nation to consider strengthening their implementation of the copyright laws;
 - a. To initiate individual researchers on the possibility of specializing the legal framework over the protection of personal and creative works data in the cyber environment.
 - b. To encourage countries to follow the principles of the international treaties and conventions regarding copyright and protecting intellectual property.
 - c. To make an effort on establishing a designated system to supervise the enforcement of established copyright laws.
3. *Requests* governments to lead the innovation in diversification and ethical enhancement of the media outlets during the COVID-19 pandemic;
 - a. To encourage governments to fight infodemic and information pollution that brings the creative industry into halt
 - b. To encourage governments to invest in alternative media outlets for the equal and efficient access of creative outputs for those who lack accessible internet connection.
 - c. To promote close cooperation between governments, as the central leading body; and creative workers as prosperity guides of the respective communities.
 - d. To invite member states to formally recognize and support the Virtual Entertainment Industry as part of the creative sector
 - e. To invite governments to co-lead the promotion of public incentive to interpret; recreate and innovate in creative and cultural sectors to preserve relevance and resilience of the sectors
4. *Requests* member states to support social welfare of social groups that are usually excluded from the social security net i.e. self-employed artists, refugees.
 - a. To encourage states to initiate collaborative research on implementing a Social Security Fund to support creative workers’ life qualities.

- i. The resources of the Social Security Fund shall consist of voluntary contributions; contributions, gifts or bequests by other states, regional or international organizations, and public or private bodies or individuals; funds raised through collections and receipts from events organized for the benefit of the Social Security Fund
 - b. To make efforts to create a unified registration and monitoring system for the collection of data of the people working in such industries in order to define the scope of artists getting benefit from the social welfare system and for the purpose of equal distribution.
- 5. *Urges* member states to celebrate the cultural diversity;
 - a. To raise awareness and support the recognition of cultural and traditional heritage of minority groups in the society by encouraging NGOs and the representatives of other civil societies.
 - b. To urge governments to initiate and fund thorough and open research on remote and/or dislocated creative communities
 - I. To enforce the use of media outlets for remote places where internet is as/not accessible
 - c. To reaffirm the diversity of cultural expressions, and information, as well as diversity of the media, enable cultural expressions to flourish within societies.
 - d. Stresses the artists and art professionals rights
 - I. human rights and as a unit of community.

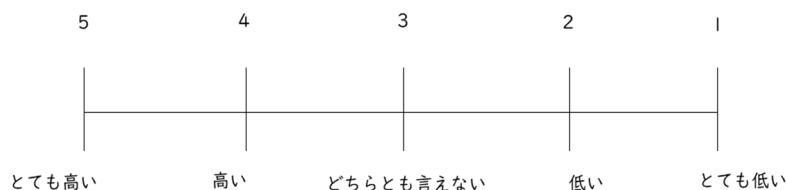
アンケート集計結果

プログラム終了直後にアンケート調査を実施し、プログラムによってどのような力が育ったのかを知る手立てとしました。アンケート調査では、(1) 関心・理解度 (2) スキル (3) ネットワーク (4) 行動 4つのカテゴリーで設定された設問に対して、参加者自身が評価基準に則り事前事後の自己評価を行いました。この結果は今後のよりよいプログラムデザイン、運営に活用いたします。

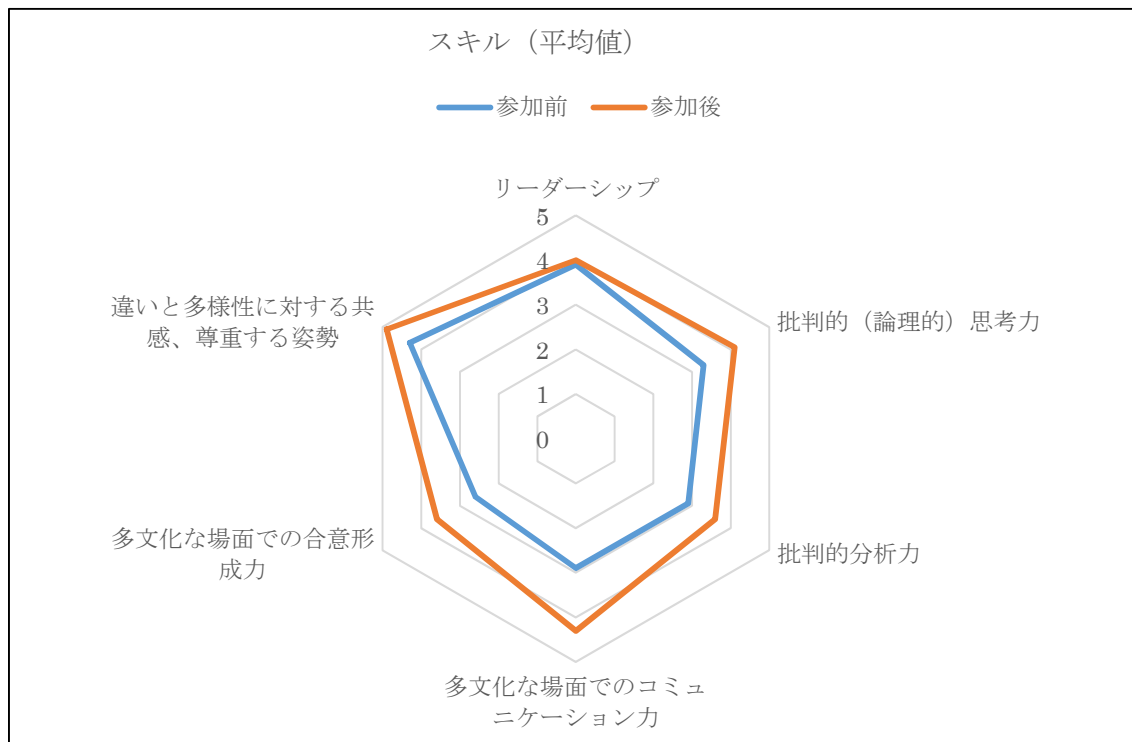
☆ 関心や理解度について



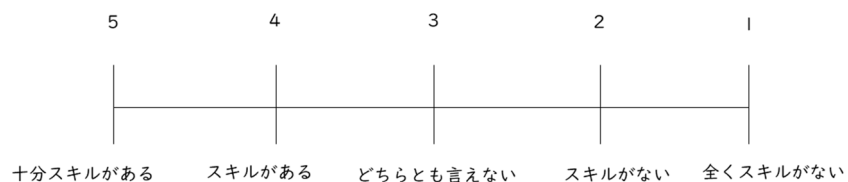
※評価基準



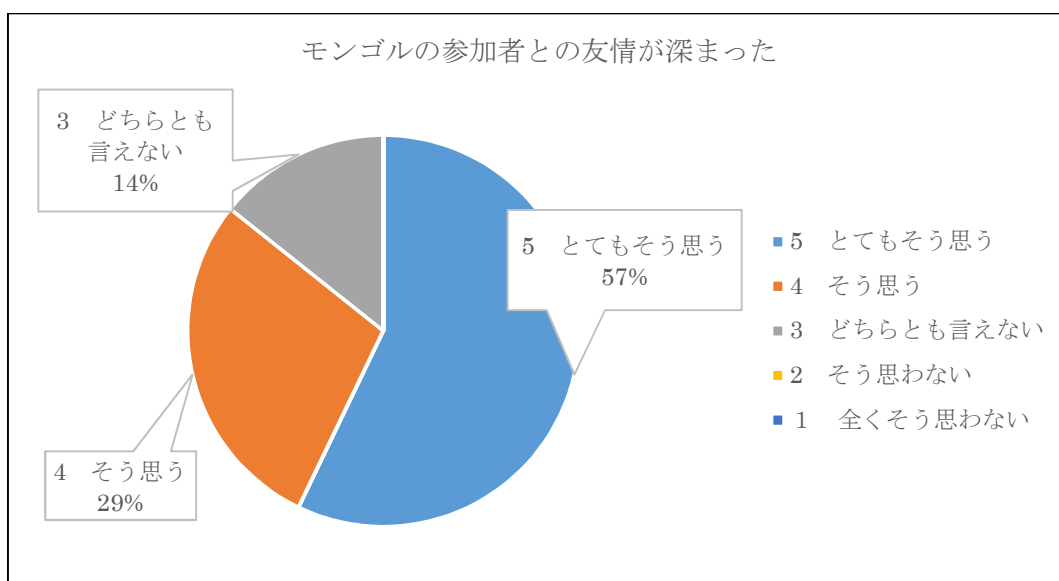
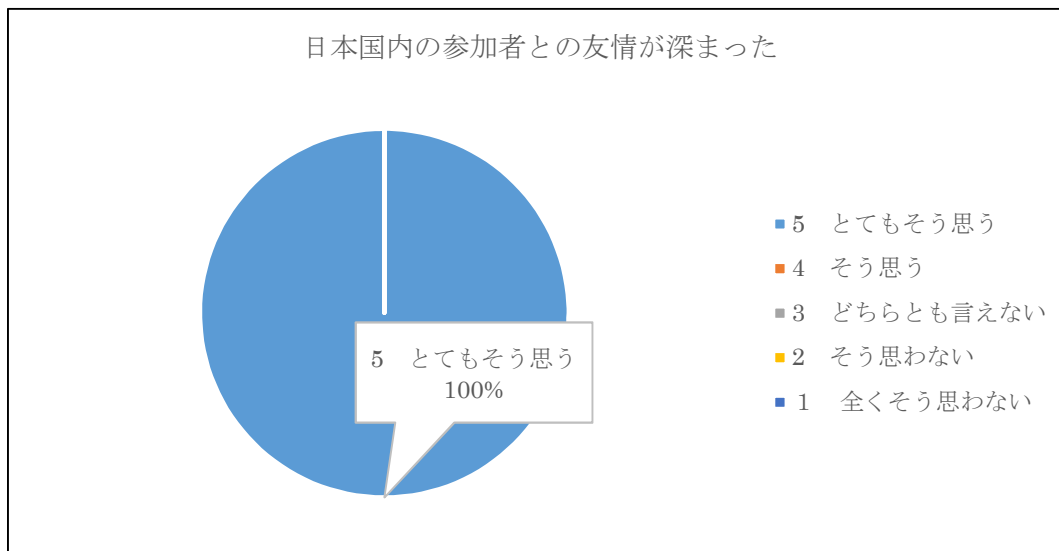
☆ スキルについて



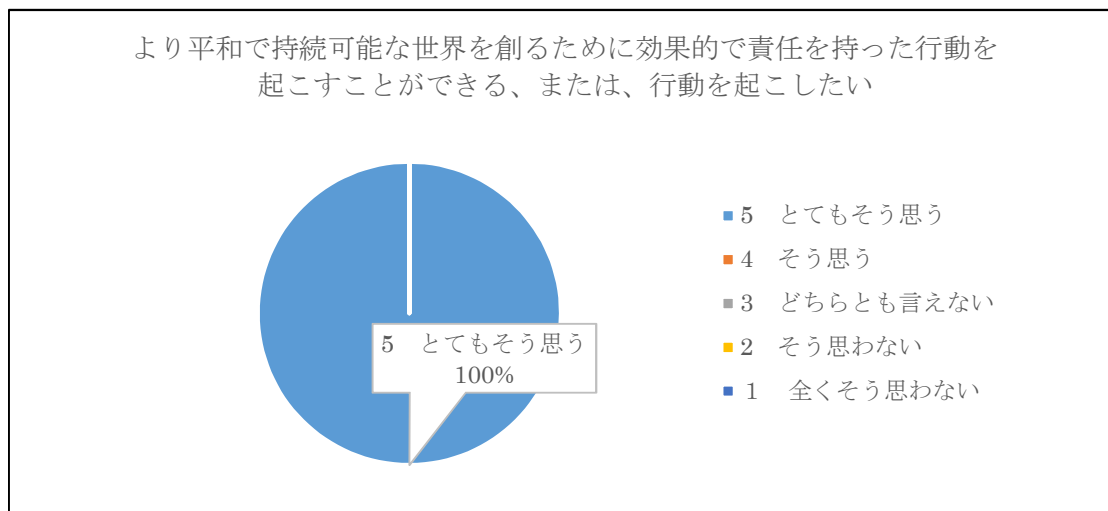
※評価基準



☆ ネットワークについて



☆ 行動について



○具体的に何をしているか、またはしてみたいか教えてください。(現在または将来の計画)

<意欲の向上(模擬国連・語学)>

- ・日本・外国での模擬国連に参加しもっと様々な国についての理解を深めたい。
- ・また模擬国連に参加して、今回以上に発言できるようにしたい。
- ・模擬国連の学校での普及に努めたい。
- ・もっと英語力をつけて今度は単身で、模擬国連に挑んでみたい!
- ・模擬国連を積極的にこれからも開催するとともに、私自らも参加することで国際社会への理解を深める。模擬国連の機会が少ないことが問題だと感じているので、大きな模擬国連を開催したい。
- ・国際交流のイベントに積極的に参加し、語学を磨きたい。

<視野の広がり(身近な活動～将来の夢)>

- ・現在はカンボジアへの教育資金を援助するために定期的に募金活動を行っている。将来私は経済経営の仕事に付きたいと思っているので、明確には定まっていないが、発展途上国での十分かつ安定的な食料の得られる農場経営システムを実現化したり、言語や場所などの障壁をできるだけ取り除いた国際交流の場を提供したりするなど、幅広い視野で考えていこうと思う。
- ・学校では、JRC 同好会として、リユース、リサイクルできるようなものの回収にさらに力をいれるようになった。また、世界のことについてよく考えるようになった。特に、ジェンダー問題に関しては、資料をみたり、ドキュメンタリーを見るようになった。
- ・将来国際系の職業に就き、沢山の外国人の方と交流したい。
- ・将来的には国連で働いて、困っている人を救いたいという気持ちが強くなった。
- ・将来は自分が世界の最前線で戦えるように、今は学を積むことと人と関わることに注力していきたい。

付録



プログラム初日

自己紹介プレゼンテーション（左）やディスカッション（右）を行った



プログラム 2 日目

オンラインで日本文化紹介のプレゼンテーション（左）

参加者同士すっかり打ち解けた（上）



MUM 開会式会場では ACCU からのビデオメッセージが流された（右上）
会議をリードした Chairperson たち（右下）



モンゴルで撮影された参加者の集合写真

—モンゴル模擬国連への参加をととして共に学ぶ—

アジア太平洋青少年相互理解推進プログラム

2020 年 12 月

編集・発行 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 1-32-7F 出版クラブビル

電話 (03)5577-2853

Email accu-exchange_ml@accu.or.jp

URL <http://www.accu.or.jp>

©2020 Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO(ACCU)

